令和３年度
真庭市人権ポスター・作文・標語集

真庭市人権ポスター　小学校　中学年の部　最優秀賞
勝山小学校　４年　寺越（てらこし）　千華（ちはな）

真庭市・真庭市教育委員会
真庭市人権教育推進委員会

ポスターの部　最優秀賞

（小学校低学年の部）月田小学校　２年　杉（すぎ）　一樹（かずき）

（小学校高学年の部）
勝山小学校　５年　上田（うえだ）　満（み）ちる

（中高生の部）
落合中学校　３年　森田（もりた）　碧（あおい）

ポスターの部　優秀賞

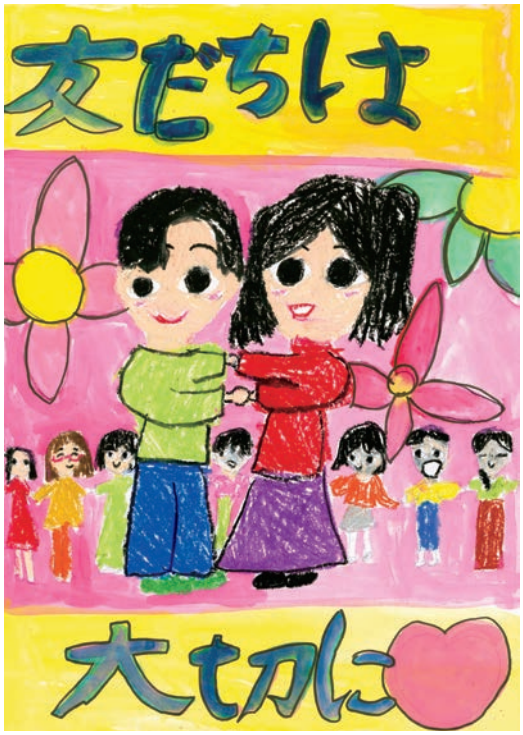
（小学校低学年の部）草加部小学校　１年　大前（おおまえ）　凛紗（りさ）

（小学校低学年の部）川東小学校　１年　松﨑（まつざき）　友希（ともき）

（小学校低学年の部）河内小学校　２年　松尾（まつお）　沙耶（さや）

（小学校中学年の部）木山小学校　３年　岸（きし）　佑香（ゆうか）

（小学校中学年の部）河内小学校　３年　妹尾（せのお）　航希（こうき）



（小学校中学年の部）
川上小学校　４年　遠藤（えんどう）　穂華（ほのか）

（小学校高学年の部）美甘小学校　５年　山本（やまもと）　心春（こはる）

（小学校高学年の部）
米来小学校　５年　二宗（にしゅう）　蓮王（れお）

（小学校高学年の部）川上小学校　６年　長尾（ながお）　愛来（あいら）

（中高生の部）
落合中学校　１年　坂手（さかて）　智勇（ちゆう）

（中高生の部）
勝山中学校　２年　小田（おだ）　彩瑛（あやえ）

（中高生の部）久世中学校　３年　三村（みむら）　日桜里（ひおり）

はじめに

公共の場や学校・職場はもちろん、地域社会でのマスク生活が当たり前になりました。いつまで続くのだろうとため息をつくこともありますが、過去の困難な状況を幾度となく乗り越えてきた人類の英知を信じ、今日もマスクをつけ、ソーシャルディスタンスを心がけ、手洗いをこまめにしています。

真庭市は「ＳＤＧｓ未来都市」を掲げ、「私が私らしく生きるまち、市民一人ひとりが人として尊重され生き生きと暮らせる共生社会まにわ」の実現を目指しています。その実現に不可欠な考えが「人権」です。「人権」は人間らしく生きるための「当たり前」の権利だと言われますが、「当たり前」になっていない問題も指摘されています。女性や高齢者、障がいのある人への差別や外国人へのヘイトスピーチ、いじめや虐待、ＳＮＳでの誹謗中傷は子どもだけの問題ではありません。さらにＬＧＢＴＱへの無理解など、枚挙にいとまがありません。新型コロナに関する感染者や家族、医療・介護従事者等への差別も私たちの心を暗くします。さらに、「何だか堅苦しくて難しい」とか、「どうせ（解決できない）」「自分には関係ない」と問題から逃げようとする態度が見えることもあります。

真庭市の児童生徒は人権意識の向上や人権問題に関する関心を高める学習を続けています。そうした不断の努力の一環として、真庭市人権教育推進委員会では、人権作品の募集を行っています。ポスター８９６点、作文７２３点、標語１０１７点の中から、今年度も人権作品集を発行することができました。特に今年は、一般の方がこの取組に興味を持って下さり、標語の応募が飛躍的に伸びたことは大きな成果でした。

小中学生の作品には、身の回りや世の中で起こっている不合理な出来事に気付き、相手の立場を尊重したり、自分の人権感覚を大切にしながら、自分の解決策を模索している内容が多くありました。こうした純粋でみずみずしい感覚を持ち、人権の大切さを前向きに捉えた作品に触れるたび、今年もたくさんの感動と勇気をいただきました。彼らの作品が、「私が私らしく、生き生きと暮らせる」社会が実現する一助になると期待しています。

豊かな感性を育む子どもの成長には、家庭・学校・地域での支援や見守りが必要です。この作品集を通じて、子どもたちの想いを共有していただき、人権への関心をより深めてまいりましょう。最後になりましたが、この作品集に応募していただいた皆様、審査やご指導にご尽力いただいた関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。なお、紙面の都合で、応募者全員の作品を掲載できなかったことをお詫び申し上げます。

令和四年三月

真庭市・真庭市教育委員会
真庭市人権教育推進委員会

もくじ

ポスターの部

◇小学校（最優秀賞・優秀賞）

月田小学校　二年　杉　一樹
草加部小学校　一年　大前　凛紗
河内小学校　二年　松尾　沙耶
川東小学校　一年　松﨑　友希
勝山小学校　四年　寺越　千華
河内小学校　三年　妹尾　航希
木山小学校　三年　岸　佑香
川上小学校　四年　遠藤　穂華
勝山小学校　五年　上田満　ちる
川上小学校　六年　長尾　愛來
美甘小学校　五年　山本　心春
米来小学校　五年　二宗　蓮王

◇中学校・高校（最優秀賞・優秀賞）

落合中学校　三年　森田　碧
久世中学校　三年　三村日桜里
勝山中学校　二年　小田　彩瑛
落合中学校　一年　坂手　智勇

作文の部

表紙裏

◇小学校（最優秀賞・優秀賞）

ポカポカする心……天津小学校　二年　豊福明日香　8
あいさつのよいところ見つけたよ……天津小学校　二年　髙倉　涼央　8
やさしくなりたいわたし……富原小学校　一年　稲岡　幸瞳　9
大切な友だち……富原小学校　二年　米山　宏太　10
おじいちゃんの気持ち……遷喬小学校　四年　池田　凪沙　10
大切な友達……遷喬小学校　四年　宮岡　新　11
福祉について……天津小学校　四年　串馬　心美　12
「名前のない手紙」を見て……湯原小学校　四年　濵子　恵司　13
友達……天津小学校　六年　周　子歌　14
人のために……天津小学校　六年　伊井　結愛　15
みんなちがってみんな良い……河内小学校　六年　福島加奈子　16
障害について……湯原小学校　六年　山﨑　理央　17

表紙裏

◇中学校（最優秀賞・優秀賞）

人の全ては見た目なの？……蒜山中学校　二年　浅原　和香　18
臓器提供カード……落合中学校　一年　坂手　智勇　19
認め合える社会……落合中学校　一年　中川　桜花　21
平和な日々を願って……落合中学校　三年　織田　恭樺　22

標語の部

◇最優秀賞

【おこらない・・・】	八束小学校	二年	池田	織葉	24
【遊びだと・・・】	中和小学校	四年	上田	湖子	24
【認めよう・・・】	余野小学校	六年	赤木	豊尚	24
【高齢者・・・・】	勝山中学校	一年	小山	奈美	24
【守りたい・・・】			落合	晶和	24

◇小学校・低学年の部（優秀賞）

【「ありがとう」・・】	中和小学校	一年	中澤	櫂	25
【いっしょだと・・】	八束小学校	一年	小谷	珀人	25
【ありがとう・・・】	八束小学校	二年	朴	潤利	25

◇小学校・中学年の部（優秀賞）

【ともだちに・・・】	美川小学校	三年	太田	純礼	25
【がんばって・・・】	美川小学校	四年	近藤	恵介	25
【友だちは・・・】	八束小学校	三年	神田	凰聖	25

◇小学校・高学年の部（優秀賞）

【「大丈夫」・・・】	樫邑小学校	五年	湯川	七愛	25
【ありがとう・・・】	中和小学校	五年	田中	菜々	25
【感じよう・・・】	遷喬小学校	六年	沼田	翔音	25

◇中学校の部（優秀賞）

【「普通じゃない」】	落合中学校	三年	光本	さら	25
【人権はね・・・】	湯原中学校	一年	池田	月花	25
【言葉はね・・・】	湯原中学校	二年	馬場萌乃香		25

◇高校・一般の部（優秀賞）

【そのなみだ・・】	柴田	誠	25
【温かい・・・・】	森下	太郎	25
【まわりには・・】	髙野	清之	25

作文の部　最優秀賞・優秀賞

最優秀賞

ポカポカする心

天津小学校　二年
豊福　明日香

わたしは、ときどき心がポカポカになります。どんな時にポカポカになるのかというと、いいことをして、
「ありがとう。」
と言われると心がポカポカになります。それに、こけた時にたすけられると、心がポカポカになります。なぜ心がポカポカになるかというと、
「ありがとう。」
と言われると、あ、わたしこんなにいいことをしたんだと、自分でもかんしんするからです。それに、こけたときに、
「大じょうぶ?。」
ときかれると、いたみがとんでいくぐらい心がポカポカになるからです。わたしは、なぜ心がポカポカになるんだろう、と考えました。そうか!と思ったわたしは、思わず、
「そうか、ありがとうや大じょうぶ?ということばは、やさしいことばだからだ。」
と言ってしまいました。そう気づいたわたしは、やさしいことばをさがしてみました。たとえば、
「なかまに入れて。」
と言うと、
「いいよ。」
とこたえるのが、やさしいことばで、心がポカポカになります。
「だめ。」
と言われると、心がしょんぼりになるので、言ってはいけません。
わたしは、これからもみんなの心がポカポカするようなことばを言いたいです。そして、もっと、やさしいことばやポカポカする心を見つけたいです。

あいさつのよいところ見つけたよ

天津小学校　二年
高倉　涼央

ぼくは、いつも学校に来たらかならず、
「おはようございます。」
と校長先生に大きなあいさつをします。ぼくは、その時、校長先生にまけないぐらい気もちをこめて、大きな声で言いたいなと思いながらあいさつをしています。ある日、あいさつをした時に、校長先生よりもすこし大きな声を出せなかったけど、校長先生が、
「いいあいさつじゃったぞ。」

と、言ってくれました。なんかすごくいい気もちになりました。それが何日も何日もつづきました。ある日の道とくのじゅぎょうで、たんにんの先生が、さいしょに、こういいました。

「みんなは、毎日あいさつをしていますか。」

と言いました。その時ぼくは、

「はい。」

と言いました。ほかのみんなも、

「はい。」

と言ったので、みんなもあいさつやっているんだなあ、あいさつって大じなんだなあと思いました。道とくの教科書の中に、『あいさつのきらいな王さま』という話を見つけました。ぼくはふしぎに思いました。そして、あいさつはいいものだぞ、あいさつは人を元気にするものだぞと思いました。その時、あることに気がつきました。あいさつはいいところがいっぱいあるということです。

これから、あいさつをもっとがんばりたいし、あいさつのいいところをたくさん見つけていきたいです。

やさしくなりたいわたし

富原小学校　一年
稲岡幸瞳

わたしのともだちのゆうひちゃんは、いつもやさしくしてくれます。わたしは、ゆうひちゃんみたいになりたいなとおもいます。そこでわたしは、まずいじわるなくちぐせをなくそうとおもいました。なぜかというとこんなできごとがあったからです。それは、いつものきょうだいげんかです。きょうだいげんかは、いつも二人とも本気になります。どんどんくちがわるくなりどちらかがなくことがあります。そのときおかあさんがいいました。

「ゆきとは、じぶんのちからでなおしなさい。」

「ゆめは、本を見てなおしなさい。」

ある日学校で本をえらぶチャンスがありました。ことばのルールについてかいてある本を見つけたのでおかあさんにおねがいしてかってもらうことにしました。ことばのルールをいっしょうけんめいよんでべんきょうをしました。なんどもいいなおしました。

ある日みんなに、

「ゆめちゃんやさしいね。」

といわれてとてもうれしかったです。これからもつづけたいなとおもいました。

そして、いろいろな人をたすけたりやさしいことばをつかったりしてもっとやさしい人になっていきたいです。

大切な友だち

富原小学校　二年
米山宏太

ぼくは、けんかのない毎日をすごしていきたいと思っています。そのほかに六つ思っていることがあります。

一つ目は、けんかのない毎日をすごすためには、わる口を言ったり友だちの心をきずつけたりすることをしなかったらいい毎日をすごせると思っています。

二つ目は、こまっている人をたすけてあげる人になりたいです。そのためには、

「どうしたの。」

と声かけをしたり、わすれものをしてこまっている人がいたら

「これかしてあげようか。」

と声かけをしてあげたりしたらこまっている人をたすけてあげれる人になれそうです。

三つめは、みんなをたたいたりしない人にもなりたいです。まえに、ぼくの友だちとけんかをしたときにせなかをたたいてしまったことがありました。そのときぼくはやってしまったと思いました。やってしまったあとはすぐに、

「たたいてごめん。」

とあやまりました。すると、

「いいよ。もうしないでね。」

と言ってくれました。そのあとすぐになかなおりできました。

ぼくは、なかなおりできてよかったなあと思いました。

四つ目は、わがままを言ったりしなかったら、いい毎日がすごせそうです。わがままを言ったことがあったので、こんどからは、わがままを言わないようにします。

五つ目は、友だちの言うことを聞くことです。ぼくは、友だちの言うことは聞いていたので、よかったなあと思いました。

ぼくは、やさしい友達が大すきです。だから、ぼくも友だちにやさしくしていきたいです。

最優秀賞

おじいちゃんの気持ち

遷喬小学校　四年
池田凪沙

わたしは、お父さんとお母さんがいない土曜日、日曜日はおじいちゃんが世話をします。

おじいちゃんは耳が遠くて小さな声だと何回でも聞き直します。だから、わたしは大きい声で言っていました。なのでおじいちゃんは、

「聞きやすいよ。」と言ってくれました。

ある日、おじいちゃんに世話をしてもらっているとき、わたしは、こう思いました。

「どうしておじいちゃんは耳が遠いのかな。」

耳が遠くなければ大きな声で言わずにすむからです。それから、

わたしはおじいちゃんが帰るまでずっと考えていました。
　ある日、おじいちゃんにまた世話をしてもらっているときでした。わたしは、あの時考えたことを思い出しました。生まれつき耳が遠いのかな、など色々聞きたくなりました。そしておじいちゃんにこう言いました。
「おじいちゃんってどうして耳が遠いの。」
おじいちゃんは少しだまって、
「年のせいで聞こえないんだよ。」
と言いました。わたしは次へ次へと色んなことを聞きました。どれもこれもびっくりすることばかりでした。話が終わったとき、私は思いました。大きい声だけで言うんじゃなくてもっと思いやりを持って言ったら聞こえやすくなるんじゃないかな。わたしはそう言うと決心しました。それからおじいちゃんだけじゃなくておばあちゃんにも思いやりを持って話すようになりました。思いやりを持って話すとおじいちゃんの気持ちが伝わってきます。その気持ちは、一生けんめい聞こえなくても聞こうという気持ちです。わたしはいつまでもおじいちゃんにやさしく話しかけようと思っています。
　わたしは、あの時まだ幼いころだったのであまりおじいちゃんの気持ちを考えてませんでした。ですが、今はおじいちゃんの気持ちがよく分かります。おじいちゃんも今までよりこんなことを言ってくれます。
「ていねいな言葉づかいだね。」など言ってくれます。わたしはそれを聞くたびにうれしくなります。
　おじいちゃんだけじゃなくて他の人にも思いやりを持って話したいです。そうするとみんながまねをしてくれると思うからです。
　わたしはあの時、思いやりを持って話して良かったと思います。
　これを書いてわたしは改めて思いやりを持って話したいと思います。

大切な友達

遷喬小学校　四年
宮岡（みやおか）　新（あらた）

　ぼくは、きつ音症があるため人前で話をするのが苦手です。でも、僕の同級生はいつも助けてくれるので、あまり困りません。からかってくる友達なんて一人もいません。
　四年生になって初めての日直の朝、一人でみんなの前に立つのがこわくて心配だったので、
「今日の日直、手伝ってほしいんだけど。」
と、友達にたのんでみました。
「いいよ。」
と、すぐにやさしい返事で手伝ってくれました。次の日直の前日、不安で今度は先生に相談しました。その後、そばにいた友達が、
「あらちゃんは、できるのに何でせんのん。自信持ちねぇや。」

と言ってくれました。家で何度も練習し、次の日の朝、ドキドキしながらみんなの前に立ちました。すぐには言葉が出てきません。すると、昨日の友達が、

「今日の日直はあらちゃんなんじゃけぇ、だまって待ってやれぇよ。」

と、みんなに声をかけてくれました。ぼくはとてもうれしくなり、練習のように日直をすることができました。

ぼくの知っているきつ音症の友達は、しゃべり方を笑われたり、からかわれたりして、いやな思いをしたことがあると言っていました。でも、ぼくはありません。ぼくの周りには一緒に日直をしてくれる友達や「できる」と信じてくれる友達、だまって待ってくれる友達しかいないからです。ぼくにとってとても大切な友達ばかりです。だから、ぼくは学校もぼくの同級生も大好きです。

十一月、学習発表会がありました。去年まではセリフもとなりの友達に手伝ってもらっていました。でも、今年のぼくはちがいます。

「先生、ぼく一人でセリフを言ってみる。」

と、自分から先生に言うことができました。

きんちょうしたけど（ぼくは言える）と自信を持って練習しました。本番当日、つまることなく、練習よりも大きな声でセリフを一人で言うことができました。

（やったぁ。ぼくも成長したなぁ）と思っていると、先生も友達も

「あらちゃん、すごい。成長したなぁ。」

と言ってくれました。はずかしい気持ちもあったけど、すごくうれしかったです。

これからも不安になったり、言葉につまったりすることもあると思うけど、僕には大切な友達がたくさんいて、助けてくれると思うので大丈夫です。困った時には「助けて。」とたのみながら、自信を持って発表していきたいと思います。

福祉について

天津小学校　四年
串馬心美（くしまここみ）

わたしがなぜこのテーマにしたかというと総合的な学習で福祉について勉強しているからです。その中で高れい者の人や、体が不自由な人、にんちしょうの人、車いす生活の人は、自分の気持ちを理かいしてもらえず、差別されることもあり、かわいそうだなと思ったからです。

ある日、学校で先生が、

「今日から総合的な学習で福祉について考えていきます。そのために、高れい者体験をしたり、車いす体験をしたり、にんちしょうにくわしい方が来てくださいます。」

と言いました。その時、わたしは、楽しそうだなと思いました。

高れい者体験の日、教えてくれる先生が

「高れい者体験では、いろいろなおもりや、目が見えにくくなるゴーグルをつけます。一人ではあぶないので三人ペアで、一人体験して二人はささえてあげましょう。」

と言いました。わたしはさいしょ、一人でやると思っていたので、そんなにあぶないと思っていませんでした。体験では、手ぶくろを二枚重ねてつけました。ペットボトルも開けれないし、自分の名前もうまく書けませんでした。かいだんをおりるときは、前も見えないし、体も重いのでとてもこわいし、ただ歩いているだけでこしがいたかったです。この体験をして、高れい者の人は、歩くだけでも大変なことを知り、おどろきました。さいしょは楽しそうだったけど、とても大変でした。

車いす体験の日、先生は、

「さいしょは自分で進んでみましょう。」

と言いました。自分で進んでみると手がとてもつかれて、うまく曲がることもできませんでした。次に先生が、

「このマットの上を一人で進んでみましょう。だんさものぼりましょう。」

と言いました。2〜3㎝のだんさも一人じゃ進めませんでした。次は友達におしてもらいました。するとすごく楽でした。マットの上も、だんさもかんたんに行けました。わたしはこの体験をして、車いすにのっている人のお手伝いをしてあげたいと思いました。

次に、にんちしょうにくわしい方が来てくださいました。にんちしょうはわかい人もなるおそれのあるとてもこわい病気です。この話を聞いて、わたしはにんちしょうの人にはやさしくせっしてあげたいと思いました。

これらの体験を通して、これからは、だれにだって差別のないようにせっしていきたいなと思ったし、困っている人がいたら、助けてあげたいと思いました。

「名前のない手紙」を見て

湯原小学校　四年
濵子（はまご）　恵司（けいじ）

ぼくは学習発表会で、五年生の「名前のない手紙」というげきを見ました。さとしという男の子がテストの点が良かったので、よろこんでいたのを友達はあまり良く思いませんでした。おさななじみのみっこを中心に、仲間はずれにしてしまいました。さとしは、しばらくつらい日が続きましたが、はるきが勇気を出してあやまると、他の友達もあやまって、仲間はずれがなくなる話でした。

ぼくは、この話の中で、自分からさとしを仲間はずれにしていることを言ったはるきをすごいと思いました。ぼくも、自分からあやまることのできるとてもやさしい人になりたいと思いました。

この話には、とてもかなしい所と、とてもやさしい所がまじっていました。

ぼくは、今までけんかをした時には、自分からあやまってい

ませんでした。でも、このげきを見てから、自分からあやまって仲なおりのできる人になりたいと思いました。

げきの中で先生が言った、

「本当の友達とは、何ですか。」

という言葉は、ぼくにとって、とてもだいじな言葉です。ぼくは、これから本当の友達とは、何なのかはさがしながら、やさしく、友達を大切にする、いい人になりたいです。そのために、すぐ仲なおりをしたり、自分からあやまったりする気もちを大切にすることが、ぼくにとっては大切になってきます。

仲間はずれにされた人は、とてもかなしい気もちになると思います。友達を仲間はずれにせずに、大切にする人が本当にやさしい人だと思います。そんな人にぼくはなりたいです。だれかが困っていたら、

「だいじょうぶ。」

と声をかけたり自分では気づかなくても、友達がいやな思いをしていたらあやまることができるやさしい人になりたいです。

最優秀賞

友達

天津小学校　六年
周（しゅう）　子（ず）　歌（うた）

あなたは、自分の友達について考えたことは、ありますか。どういう友達が本当の友達といえるのでしょうか。

私は七年前の十二月に中国から来ました。日本での生活は、楽しみだけど、不安でした。日本語がまったく分からないのと、友達が一人もいなかったからです。そして、約一ヵ月後に私は、幼稚園に入園しました。そこでもみんながしていることをただまねするだけでした。でも家に帰ったらお母さんに今日の出来事を話したり日本語を教えてもらったりするのがとても楽しみでした。ある日、幼稚園でなわとび大会を行いました。その後、片付けのときに、私はなかなかなわとびを結べませんでした。すると、一人の女の子がやってきて、

「結んであげるよ。」

と優しく声をかけて、なわとびを結んでくれました。その時は、初めて、優しさを感じました。ありがとうの一言でも言いたかったけど、でも声に出せずにやりとりを終わってしまいました。

家に帰って、私はずっとそのことを思っていたのです。次の日にまた会いました。すると、

「ズグアちゃん、おはよう。」

と言われて、とてもうれしかったです。そして二人は友達になり、よく遊ぶようになりました。小学一年生になると、私がわからない言葉を教えてくれたり、説明してくれたりしました。私も説明してくれた日本語を忘れないようにがんばって覚えました。クラスのみんなも、私が外国人だからといって、特別なことをしてくれたり、私だけとは遊ばなかったりすることは、ありませんでした。そんな仲間がいたから私も自信を持って自

分から話しかけたり、授業中は発表をしたり、わからないことをたずねたりできるようになりました。そんな私を支えてくれたクラスのみんながいたから、私は、あきらめずに、毎日を楽しく過ごせたと確信しています。

楽しいときは、いっしょに笑ってくれる、悲しいときは私のことを理解してくれる、共に協力し合いまちがいを言える、言ってくれるのが私の中の本当の友達だと思います。

私は、日本に来て、うれしいこと、悲しいことといろいろ経験したけど、でもやっぱり来てよかったと思っています。なぜかと言うと、こんなに優しくて、おもしろくて私のことを思ってくれる友達に出会えたからです。私は、今もこの先も、ずっとこんなすばらしい友達を大切にし、みんなでがんばっていきたいと思います。

私の本当の友達、ありがとう。

人のために

天津小学校　六年
伊井結愛

三年生の夏と秋の変わり目、私は、父からこんな話を聞きました。

「子どもでも、病気や、病気を治す薬のせいでかみの毛がぬけてしまう人もいるんだよ。」

私は、とてもおどろきました。それと同時にとてもかわいそうだと思いました。私は気になったのでその病気の人たちのために、何ができるのか、父に聞くと、

「その人たちは、かみの毛がぬけてしまっているから、かみの毛を寄付して、ウィッグを作るくらいだったら少しは役に立てると思うよ。」

と教えてくれました。

私のかみの毛は、当時、こしの少し上あたりの長さだったけど、もう少しのばしてから、かみの毛を寄付することにしました。

そしてその翌年の七月二十八日に、かみの毛を寄付することができるさんぱつ屋さんに行ってかみの毛を寄付しました。私は、ずっと長いかみの毛の方が好きだったので、かみの毛が短くなるのは少しさみしかったけど、思いきってかみの毛を五十一センチ寄付しました。

そして、その二週間後くらいに寄付先からお礼の品が届きました。大きめの封筒に入って届きました。中身は、はがきサイズの紙にいろいろな国の言葉で書かれた「ありがとう。」の文字と、水色をしたヘアゴムでした。かみの毛は短くなったけど、寄付した人に喜んでもらえて、とてもうれしかったです。

私は、うれしかったので、そのことを夏休みの自由研究にしました。ネットでもそのことについて調べました。

病気のせいで、かみの毛がぬけてしまうだけでなく、学校にも行けれない人もいて、その人たちのために、病院の中に学習ができる施設があることに、おどろきました。

病気で学校に行けない人でも、勉強をする権利はあるので、そういうところにでも人権は守られていると思いました。

私は、なりたくてなっているわけではないつらい病気にかかってしまって、つらい思いをしてしまっている人のために、少しでも、よろこんでもらえるように、少しでも力になれるように、一度だけでなく、力になれるときには、病気の人だけではなく、困っている人の力になれるような人になりたいと思いました。

これからも、一人一人の権利を大切にして苦しんでいる人の力に少しでもなりたいと思います。

みんなちがってみんな良い

河内小学校　六年
福島　加奈子

みなさんは、人権について考えてみたことがありますか？

昔から差別やいじめなどはあって、近年「人権」の事について考えようという、プロジェクトなども始まってきていますが、今でも差別やいじめは、なくなっていません。

私は、社会の授業で「ハンセン病の歴史」を習いました。明治後期から昭和前期にかけて、らい病（ハンセン病）にかかる人が増えたそうです。ハンセン病にかかると、神経痛や麻ひ、他にも体が変形したり、後遺症が残ったりします。なので、その見た目のせいで、偏見や差別の対象にされ、患者を強制的に収容し、一生出られなくしたり、ハンセン病政策が行われたりしました。

しかし、ハンセン病は感染力が非常に弱く、うつりにくい病気であるのに加え、感染しても、発病することはまれです。昔の人々は、それを知らずにらい病は親から子へうつる、前世のたたりなど、言われていたそうです。それなのに、それが差別だとみとめられたのは、つい最近の事なのです。

この話を聞いて、少しでも偏見や差別の事について考えてみてほしいです。人はみんなちがいます。見た目やせい格も、好みもみんなちがうのです。

何かのグループなどで、一人だけちがう、一人だけテンション高すぎなどと思い、差別やいじめをする人も、もちろんいます。だけど、その気持ちをグッとこらえ、それも一つの個せいなのだと思ってみて下さい。

きらいな人がいても、その人の良い所を探してみたり、見た目だけで決めつけず話してみたり、うわさが広まっていても、すぐ信じず、自分でその人の事を知ってから、決める。

これらの事について、しっかり考え、一人一人が少しでも気をつけて行動することで、少しずつ世の中が変わると私は思います。

きずつけた人があやまっても、きずつけられた人の心は必ず治るということは、ありません。最近、そんな思いに苦しみ、自殺したなどというニュースをよく聞きます。

インターネットで差別された、いじめられたなどの話もよくありますが、インターネットは、世界の人とかんたんにつながったり、メールなどを送信できますが、その便利さにネット内の人をいじめたり、悪口を書きこんだりはしてはいけないと思います。みなさんも、ネットの使い方や、ふだん友達と会話したりする時なども、自分がされて、いやな事は他の人にしないように、改めて、その事についてよく考えてみて下さい。そうすることで、少しでもいじめられている人が少なくなるかもしれません。

障害について

湯原小学校　六年
山崎（やまさき）　理央（りお）

世界には、障害がある人がたくさんいます。下半身を動かせなかったり、耳が聞こえない人もいます。そんな人を、

「足が無いから。」

などと言って仲間外れにするなどの差別をする人もいます。私は、誰かを差別する人は許せません。

私は元アイスホッケー日本代表の上原大佑選手のお話を聞いたことがあります。上原選手は足が不自由で、小さい頃に自転車に乗りたいと思って、お母さんに言ったら、「足が不自由だから無理。」と言われるのではなく、「乗れる自転車がないか探してみるね。」と言ってくれたそうです。私はこのお話を聞いて、とても感動しました。不自由だからと言って否定するのではなく、乗れる自転車を探すという、前向きな返事なので、私もなんだかうれしい気持ちになりました。私がもし体のどこかに不自由なところがあったら、否定的な言葉より前向きな言葉をかけてくれた方がうれしいです。私もこんな風に、相手の気持ちを考えて、その人が前向きになれるような言葉をかけようと思います。

日常の中で、体に障害がある人が助かるような工夫をしている場所が多くあります。例えば、外に出ると急な段差があったりします。それを段差にするのではなく、ゆるやかな坂道にしているところがあります。他にも、点字ブロックを使って、目が見えない人が少しでも安心して歩けるように工夫しています。この他に、生活のお手伝いをしてくれる介助犬がいたり、自立して生活できるように、障害がある人のための学校があったりするなど、様々な取り組みがされています。

私は、将来の夢はまだ決まっていません。だけど、障害がある人を支えられるような職業に就くとも考えています。この先、私が体を自由に動かせなかったり、目が見えなくなったりすることがあるかもしれません。そうなると、とても大変です。同じように、今障害がある人は毎日の生活の中で、困っていることが、きっとあると思います。もし、どこかで車いすに乗っている人や、困っている人がいれば、「手伝いましょうか。」など、やさしい声かけをしたいです。障害がある、ないにかかわらず、

誰にでもやさしく、みんな同じ接し方で、困っている人を少しでもサポートできるように、これからもがんばります。

最優秀賞

人の全ては見た目なの？

蒜山中学校　二年
浅原和香（あさはらのどか）

「〇〇ちゃん、女の子なのに本気で変顔してすごい！」

これは、あるＳＮＳ動画のコメント欄にあった言葉だ。このコメントに対して、たくさんの返信があった。その返信のほとんどは、

「女の子なのにって何？それはおかしい。」

などといったものだった。たしかに今の世の中は、「化粧は女性がするもの」・「女性はかわいくすること、男性はかっこよくすることが大切」という概念がある。そのＳＮＳ動画の人は、いつもはかわいい感じだった。だが、途中で変顔する動画があがると、先ほどのようなコメントがあがるのだ。そのコメントをした人は、ただ思ったことをコメントしただけだけれど、それを自然に思うということ自体がもう間違っていると思う。そのコメントに対しての反論の返信が想像以上に多かったからか、私が次見たときにはそのコメントは消えていた。きっと、「ヤバい！」と思ったコメントの投稿主が消したのだろう。ピンチになって、コメントを消してなかったことにするのが、正直いちばん最低だと思う。このコメントを見て、そしてそれをいつのまにか削除しているのを見て、動画を投稿した人はどう思うだろうか。全世界の人が見ることのできるＳＮＳというものの中で、そうやって思ったことをバッと載せるのは絶対にだめだ。ましてや、性別について頭の中で決めつけをして、それに関するようなことを書くのは本当にひどい。こんな心ないちょっとしたコメントからＳＮＳ上でのいじめに繋がっていくのだと思うと、すごく怖い。私は絶対にコメントを送信する前にもう一度読むようにしている。これは続けていきたいし、女性だから、男性だから、あるいは子供だからといったことを載せている人を見かけたら、悪い手本としたい。

男女差別でいえば、わたしもすごく心に残る出来事があった。冬、スキー場でリフト待ちをしているときのこと。私がレディースのウエアを着ているときに割り込まれたことがある。一度だけではない。けれど、ボーイッシュなウエアを着て顔がネックウォーマーとゴーグルで隠れているとき、または、大会などの時に着用するウエアのようなものを着ているときにはあまり割り込まれたことがない。また、そのレディースのウエアを着ていたときは小学校低中学年の頃だった。言い換えれば、割り込みをされたのは、女の子っぽくて小さい子どものとき、されなかったのは男の子っぽい格好で、身長も高くなってきているときだった。これは偶然かもしれない。偶然でないのであれば、女性や弱そうな子どもを下に見ているとしか思えない。

また、私がスキーワンピースを着ているときは絶対といっていいほど割り込みがない。それはなぜか。スキーワンピースといえば、私の中で上手い選手が着ているイメージがあるのだが、服装でわかるその人の技術面を見ているのだろうと思う。見た目で自分より下手に見えればいいばる。ただそれだけだろう。そうやって人は女性や自分より弱そうな人に対して偏見をもっている。

わたしはこのような「差別」に関する本を読んだことがある。「黒人差別」についての本だ。その中でも特に「ユダヤ人」についての本だ。その内容は、ユダヤ人を差別して収容所に入れ、過重労働させたり虐殺したり、というものだった。安心して住める家もなくあげくの果てには殺される。それも結局見た目、あとは「人種」。人種も、たまたまユダヤ人に産まれただけだ。たまたまそうなっただけで命がおびやかされる。これこそが本当に人権を侵害している。本当に最悪の出来事だ。

これからを通していえることは一つ。「見た目」で判断しすぎている。たしかに見た目から得られる情報量は多く、絶対に必要だ。しかし、それはほんの一部の情報でもある。私は世界中の人に考えてほしい。

「人の見た目は全てなの？」

臓器提供カード

落合中学校　一年
坂手（さかて）　智勇（ちゆう）

八月になってすぐの日。ぼくは、お母さんに呼ばれた。

「これを書いてくれない？」

差し出されたカードを見ると、保険証の裏面だった。

「臓器提供。」

ぼくがつぶやくとお母さんが言った。

「毎年のことだけど、新しい保険証がきたから、また、お願い。」

ぼくが三年生の時、臓器提供について、お父さんとお母さんが話してくれた。その時はまだ、よくわからなかったけど、ぼくが死んだら、ぼくのからだの一部を欲しい人にあげるんだと思っていた。死んだ後のことだから「いいよ。」と名前を書いてきた。

でも、今年は、ふと疑問に思うことがあった。

「何で、毎年書くの。ぼくがいつでも死んでもいいですよと言われているみたいで、ちょっと怖い。」

と、正直な気持ちを伝えてみた。

「そう思ってたんだ。それは、嫌な気持ちで書いてたね。説明が足りなかったね。ごめんね。」

と、お母さんが頭をなでた。

「臓器提供は死んでもいいということではないんだよ。むしろ、

その逆。健康で生きていきますという約束だよ。」
「どうして？死んだ後のことじゃん。」
「そうだよね。臓器を待っている人になって考えてみたらどうかな。病気やけがで苦しんでいる人達が、健康になるために臓器を待っているんだよね。だから、その人たちが欲しいのは、元気で健康的な臓器だよ。智勇が、事故や病気で突然死んでしまった場合、まだ使えるきれいな臓器を届けるのが臓器提供。だから、元気に健康で過ごしていなくては、死んでしまっても、臓器提供できないかもしれないよね。」
ぼくは、たくさんのことを同時に言われ、混乱しそうになった。
「それにね、これを使うことがあってはいけないと思う。いつまでも、健康で元気に長生きしてほしいから。でも、人は何があるかわからない。だから、人生最後の瞬間まで、誰かの役にたてるように準備しておくことは、とても大切なことだとお母さんは思うの。」
「お父さんは、智勇が死んでしまったら、誰にも智勇の臓器を渡せないかもしれない。体の一部を切り取るなんて。でも、智勇の意思がわかっていたら、最後の智勇の望みを親として、叶えてあげようと思えると思うんだ。でも、やっぱり、あってはならないことだけど。」
というと、お父さんは涙を浮かべていた。ぼくは、死んでからも人の役に立つという考え方は思い浮かばなかったし、臓器提供できるるように、今を元気に健康に生きていくという発想はなかった。臓器提供のカードにサインすることは、ぼくの最後の意思表示であるとの説明に、怖さがなくなり納得した。
「もちろん、提供しないという選択でもいいんだからね。」
とお母さんが言った。でも、ぼくは、今年も提供するに丸をして、名前を書いた。こわさはなくなったが不思議な感覚で書いた。自分で書いたカードの名前をみて、健康に生まれてよかったと思った。
　今年から、三年生になった弟も書いた。ぼくと同じように、よくわかっていないようだった。いつか、ぼくが説明してあげようと思った。続けて、兄達もサインしていた。
家族全員が書き終わると、お父さんが、一枚一枚、ゆっくりと家族署名欄に名前を書いていた。お父さんのカードには、お母さんが名前を書いていた。書き終わると、お父さんが言った。
「これからまた一年、元気に無事故でがんばろう。」
と。お父さんは、よく、熱く感情込めて話すが、今回はうざいと思わなかった。むしろ、いい家族だなと思ってしまった。自分の事だけでなく、今、苦しんでいたり、悩んでいる人の事を忘れてはいけないと思わせてくれた。
　ぼくは中学生になり、すぐにイライラしたり、腹立つことが増えた。自分のことだけで人のことまで考えられない時もある。でも、臓器提供のことを考えたら、イライラしても今を元気に過ごすことが人の役に立つかもしれないなら、自分の体を大切にしようと思えるような気がした。

「毎年書くのは面倒だけど、命の大切さを思い出すことができるから、毎年、更新なのかもね。」
お母さんの言葉に、また、納得した一日だった。

認め合える社会

落合中学校　一年
中川（なかがわ）　桜花（ももか）

私は、運動が得意ではありません。なので、オリンピックは私の頭の中では、あまり関心のない事の一つです。でも、今年のオリンピックは東京で開催された事もあり、私のような人も観戦したかと思います。ただ、今回は、トランスジェンダーを公表している選手が、初めてオリンピックに出場したという事を母から聞きました。結果は残せなかったそうですが、母は、
「すごい事だね。男女差別はなくならないような国もあるし、スポーツなんかは、特に難しい問題でもあると思うけど。こういうのいいね。」
と言っていました。

私と母と姉は、ＬＧＢＴＱの事やジェンダーの事などを、割とよく話をすると思います。図書館で本を借りてきて、読みながら、色んな話をする事もあります。私達の中で、このような事を話すのにはわけがあります。母が高校生の頃、自身の母（私にとっては祖母）と、両親に息子が「心は女性」と、カミングアウトをするテレビ番組を二人で見ていたそうです。当時は、まだまだ差別の多い時代だったようで、結局認めてもらえず、悲しい結末だったようです。すると、横で見ていた祖母が、
「この人の人生だから、いいのにね。お母さんだったら、いいよって言ってあげるのに。」
と言ったそうです。その時、母は、「この人すごいな。」と思ったそうです。トランスジェンダーのような人が、まだ色眼鏡で見られていたような時代に、あっさりとこんな事が言える人が、こんな近くにいるんだと。私から見ても祖母は、少し変わった人で、周りにとらわれない、自由な人です。一緒にいると、とてもおもしろいです。そんな祖母に育てられた母なので、ＬＧＢＴＱの事などには、とても理解があり、私も理解したいと思っているので、色々な話をします。

現代の社会生活の中では、たくさんのＬＧＢＴＱの人が、テレビなどで活やくしています。レディー・ガガさんやオードリー・タンさんなどの有名人も、セクシュアリティを公表しています。ここに至るまでに、数えきれない程の悩みや、かっとうがあったと思いますが、彼らが前に出てくれた事で、助けられたり、勇気付けられた人がたくさんいると思います。少しは、そのような人達も、生きやすい世の中になったのかなと思いますが、私には分からない事も、あると思います。

私の身近にある、そういった事の一つに、姉の学校の制服にスラックスができました。当たり前のようだったけど、当り前じゃなかった事です。スカートをはくのに、抵抗がある人もい

ます。「女子だから」と言うのは、偏見だと思います。私は、着たい物を着ればいいと思います。着たくない服を着るより、自分の着たい服を着ることの方が、自分らしくていいと思います。少し前に、新聞の記事で、子ども向け番組の事が書かれていたのを見ました。私の一番上の姉が、幼稚園位の頃、見ていたアニメ番組ですが、始まった時、二人の女の子は、素手で戦っていました。今までの同じような番組は、魔法道具などで戦っていたそうです。そのコンセプトが「女の子だって暴れたい」でした。番組は、今でも続いていますが、変身した男の子が登場するなど、ジェンダーを意識し、最近は、多様性や自分らしくなども取り入れています。アニメなど子ども達が見る物で、自分もこうであっていいんだと思う事は、とても重要だと思います。周りと同じでなければいけないとか、男の子、女の子だから、こうでなければなどと考えなければ、視野や可能性は、もっと広がると思います。何よりも、偏見と言う芽が生えてこなければ、大きくなることもありません。

グローバル化する社会の中で、色んな人がいて、考え方も価値観も違うことが当たり前で、自分と違うからとか、見た目がどうとかそんな事を気にせず、たくさんの人と関わって、理解して、個の尊重と言うような大切な事をつちかって行きたいと思います。私でいい、あなたでいいと認められる、認めてもらえるような社会になればいいなと思います。

平和な日々を願って

落合中学校　三年
織田（おだ）　恭華（きょうか）

みなさんは、原爆ドームを訪れたことがありますか。原爆ドームは世界遺産にも登録されている建物です。

私は以前、広島に住んでいたとき、何度も原爆ドームを見てきました。すごく大きくて歴史を感じる建物でした。原爆について分からないほど小さかったころは、建物みていつも何の建物なのか疑問に思っていました。そして毎年その原爆が投下された八月六日の午前八時十五分、大きなサイレンが鳴ります。その日は必ず家族で早起きをしてサイレンが鳴るのを待っていました。当事のことを思いながら、これからの平和を願いながら一分間集中して黙とうします。テレビをつけると、ほとんどのチャンネルが広島平和記念式典の様子を放送していました。夜には、原爆についての番組を見たりなど、毎年その日は原爆のことを考えながら過ごしていました。

原爆についての番組を見ているなかで、見ていて苦しくなるような映像や写真がたくさんありました。原爆が落ちる瞬間の映像はとても恐怖でした。当事のことをインタビューされていた方も思い出して涙を流していました。大きな原爆がおとされたことによって多くの人が亡くなったり、ケガをしたり、大切な人を失いました。もし私が、その時の時代に生きていて原爆がおちてきたらと思うと考えられないくらい怖くなります。私

と同じ年齢ぐらいの子が小さい自分の大切な家族である子をおんぶしながら必死に歩いている映像を見ると自然と涙があふれたりもしました。それから資料館にも訪れたことがあります。そこには、当事の人が実際に、使用していた服や物、写真、人々の様子を再現した人形などたくさんの展示物がありました。なかに見ていられないような写真があったりもしましたが、当時のことをくわしく知ることのできる場所でした。小学生だったので難しく理解できなかったことがあるなかでも悲しみや苦しみを充分に感じることができました。だから原爆ドームを見るといつもそのことを思い出します。苦しんでいる人々の写真が頭に思い浮かんで胸がしめつけられるような感じがします。

それからもう一つ思うのが、戦争をしてた人々に幸せと呼べるときがあったのかということです。戦争中の毎日はすごく大変で苦しかったと思います。そんな中、少しでも幸せと思えたときがあったらいいなと思います。例えば、家族と一緒にいるときや、誰かと笑い合ったりなど、幸せな時間を過ごせた人が多いことを願っています。

そして今の私たちが、何ごともないあたりまえで、幸せな一日を大切に生きたいと改めて感じています。戦争中とは違った平和な朝をむかえることができていることは、一番の幸せだと思います。原爆の被害にあった人々は、やけどをたくさんしたり骨せつや傷ができていたりなど体の痛みを抱えていたことと同時に、食べ物にも困っていたと思います。お腹いっぱいに食べられることなどなく、やせている人が多くいるように思いました。だから、今の自分が食べ物をお腹いっぱい食べられていることにも感謝したいと思います。それから、戦争中に生きていた学生の人々は自分の将来やりたいことを見つけて学習に励むことも不可能だったと思います。私には将来やりたいことがたくさんあって、今は学生として、勉強を頑張っています。それがもし出来ないと思うと、言葉が出なくなるほど落ちこむと思います。自分自身がしたいことが出来ない日々ほど苦しいことはないと思いました。だから今の私が、将来やりたいことを叶えるために、学校へ通えること、たくさんの人に応援してもらえること、努力して学習を頑張れていることにも感謝を忘れないようにしたいと思います。

そんなふうに、生きているなかでたくさんの幸せな毎日を過ごせていることに喜びを感じています。戦争は、多くの人が苦しんで亡くなっていきます。たった一つの命を失うことが、どれだけの人を悲しませるのかを原爆ドームを見て、知ってもらえたらいいなと思います。そして、戦争とは違った犯罪や自殺などの命の失い方が少しでもなくなったらいいなと思います。私もこの幸せで平和な毎日に感謝して、食事をしたり、勉強を頑張りたいと思います。家族や友達との時間も大切にしながら楽しく生きていきたいです。そしてこれからも戦争がなく、平和な日々を過ごせることを願いながら笑顔で頑張っていきたいなと思います。

標語の部　最優秀賞

小学校低学年の部

おこらない　みんなできたら　金メダル

八束小学校二年　池田（いけだ）　織葉（おりは）

小学校中学年の部

遊びだと　思っていても　いじめかも

中和小学校四年　上田（うえだ）　湖子（ここ）

小学校高学年の部

認めよう　一人一人の　得意技

余野小学校六年　赤木（あかき）　豊尚（とよひさ）

中学校の部

高齢者　敬う気持ちを　大切に

勝山中学校一年　小山（こやま）　奈美（なみ）

高校・一般の部

ま守りたい　にこにこ暮らせる　わが町を

落合（おちあい）　晶和（まさかず）

標語の部　優秀賞

小学校低学年の部

「ありがとう」こころがぽかぽか うれしいな
中和小学校一年　中澤　耀

いっしょだと ちからが出るよ がんばれる
八束小学校一年　小谷　珀人

ありがとう こころをこめて 言えるかな
八束小学校二年　朴　潤利

小学校中学年の部

ともだちに ふわふわことば つかおうよ
美川小学校三年　太田　純礼

がんばって おおきなエール 友達に
美川小学校四年　近藤　恵介

友だちは ひとりひとりが たからもの
八束小学校三年　神田　鳳聖

小学校高学年の部

「大丈夫」相手を助ける その言葉
樫邑小学校五年　湯川　七愛

ありがとう その一言で すくわれる
中和小学校五年　田中　菜々

感じよう 優しくされる ここち良さ
遷喬小学校六年　沼田　翔音

中学校の部

「普通じゃない」あなたが決める ことじゃない
落合中学校三年　光本　さら

人権はね 生まれたときから ある権利
湯原中学校一年　池田　月花

言葉はね ときに凶器に なることも
湯原中学校二年　馬場萌乃香

高校・一般の部

そのなみだ うれしなみだに 変えていく
柴田　誠

温かい 心で拡がる 地域の輪
森下　太郎

まわりには 必ずいるよ 理解者が
高野　清之

令和３年度 真庭市人権作品コンテスト入賞者一覧表

◇ポスターの部

部門	賞区分	学校名	学年	氏名
小学校低学年	最優秀賞	月田小	2	杉一樹（すぎ かずき）
	優秀賞	草加部小	1	大前凛紗（おおまえ りさ）
		河内小	2	松尾沙耶（まつお さや）
		川東小	1	松﨑友希（まつざき ともき）
	奨励賞	勝山小	2	福冨佐和（ふくとみ さわ）
		湯原小	2	柴田玲奈（しばた れいな）
		川上小	2	山口寛太（やまぐち かんた）
		河内小	2	渡邉希（わたなべ のぞみ）
		河内小	1	渡邉芽依（わたなべ めい）
		米来小	1	光岡葵（みつおか あおい）
		草加部小	1	廣瀬羽留（ひろせ はる）
		勝山小	1	山田優（やまだ すぐる）
		勝山小	1	吉田悠世（よしだ はるせ）
		月田小	2	影山瑠星（かげやま りゅうせい）
		川上小	2	眞田莉未（さなだ りみ）
		北房小	1	藤本和花（ふじもと なのか）
小学校中学年	最優秀賞	勝山小	4	寺越千華（てらこし ちはな）
	優秀賞	河内小	3	妹尾航希（せのお こうき）
		木山小	3	岸佑香（きし ゆうか）
		川上小	4	遠藤穂華（えんどう ほのか）
	奨励賞	遷喬小	3	湯浅静穂（ゆあさ しずほ）
		川東小	3	福島佳那（ふくしま かな）
		美甘小	4	中山浬（なかやま かいり）
		米来小	4	福島明花音（ふくしま あかね）
		湯原小	3	植木倖輝（うえき こうき）
		北房小	4	岩﨑心音（いわさき ここね）
		落合小	3	山本一樹（やまもと いつき）
小学校高学年	最優秀賞	勝山小	5	上田満ちる（うえだ みち）
	優秀賞	川上小	6	長尾愛來（ながお あいら）
		美甘小	5	山本心春（やまもと こはる）
		米来小	5	二宗蓮王（にしゅう れお）
	奨励賞	北房小	6	片岡めい（かたおか めい）
		中和小	5	中澤柚（なかざわ ゆず）
		落合小	6	福本穏菜（ふくもと しずな）
		落合小	5	髙橋美波（たかはし みなみ）
		川上小	6	山口琉愛（やまぐち るあ）
		勝山小	5	若佐志麻（わかさ しま）

小学校高学年	奨励賞	遷喬小	5	小坂綾音
中学校	最優秀賞	落合中	3	森田碧
	優秀賞	久世中	3	三村日桜里
		勝山中	2	小田彩瑛
		落合中	1	坂手智勇
	奨励賞	落合中	3	難波乃亜
		落合中	3	辻岡優菜
		久世中	1	宗森葵生
		久世中	3	宮川愛菜
		勝山中	2	髙谷夏央
		勝山中	3	西尾佳純

◇作文の部

部門	賞区分	学校名	学年	氏名
小学校低学年	最優秀賞	天津小	2	豊福明日香
	優秀賞	天津小	2	髙倉涼央
		富原小	1	稲岡幸瞳
		富原小	2	米山宏太
	奨励賞	天津小	1	竹内瑠杏
		富原小	1	沖田優妃
		富原小	2	宮田和毅
		美甘小	2	中山瑠夏
小学校中学年	最優秀賞	遷喬小	4	池田凪沙
	優秀賞	遷喬小	4	宮岡新
		天津小	4	串馬心美
		湯原小	4	濵子恵司
	奨励賞	落合小	4	福本麻友
		美甘小	4	大倉理加
		湯原小	4	古林巴
		富原小	3	綱島新
		月田小	4	景美菜子
		草加部小	4	森上颯真
		河内小	4	前田龍佑
		落合小	4	長尾凛楓
小学校高学年	最優秀賞	天津小	6	周子歌
	優秀賞	天津小	6	伊井結愛
		河内小	6	福島加奈子
		湯原小	6	山﨑理央

小学校高学年	奨励賞	川東小	5	中尾綾花
		草加部小	6	定方梓
		落合小	6	坂元里奈
		天津小	6	道下結月
		木山小	6	片山奏
		富原小	6	谷口栞菜
		美甘小	6	坂本莉音
中学校	最優秀賞	蒜山中	2	浅原和香
	優秀賞	落合中	1	坂手智勇
		落合中	1	中川桜花
		落合中	3	織田恭樺
	奨励賞	落合中	1	竹平優芽
		久世中	2	小野真佳
		落合中	1	芦川凛
		久世中	3	伊藤一花
		久世中	3	三村侑矢
		落合中	3	藤堂桂大
		落合中	3	福本京香
		蒜山中	1	木村仁美
		勝山中	2	植田美羽

◇標語の部

部門	賞区分	学校名	学年	氏名
小学校・低学年の部	最優秀賞	八束小	2	池田織葉
	優秀賞	中和小	1	中澤櫂
		八束小	1	小谷珀人
		八束小	2	朴潤利
	奨励賞	樫邑小	1	幸村千夏
		余野小	1	政保隼人
		天津小	1	立石朱麗
		八束小	2	吉田音牙
		川上小	2	筒井百恵
小学校・中学年の部	最優秀賞	中和小	4	上田湖子
	優秀賞	美川小	3	太田純礼
		美川小	4	近藤恵介
		八束小	3	神田凰聖
	奨励賞	余野小	4	中野太雅
		樫邑小	4	金崎大和
		天津小	4	家元愛珠

小学校・中学年の部	奨励賞	美川小	4	太田心菜
		八束小	4	池田凛恩
		川上小	4	真田実空
		川上小	4	藤井大輝
小学校・高学年の部	最優秀賞	余野小	6	赤木豊尚
	優秀賞	樫邑小	5	湯川七愛
		中和小	5	田中菜々
		遷喬小	6	沼田翔音
	奨励賞	中和小	5	森田朱音
		樫邑小	5	幸村恵太
		余野小	5	仁後汰一
		遷喬小	6	庄司美蘭
		天津小	5	岩浅佑果
		美川小	5	押目彩花
		八束小	5	小谷もな
		八束小	6	川合大和
		川上小	5	三原遙真
中学校の部	最優秀賞	勝山中	1	小山奈美
	優秀賞	落合中	3	光本さら
		湯原中	1	池田月花
		湯原中	2	馬場萌乃香
	奨励賞	勝山中	2	坂部日那人
		勝山中	1	小野田美貴
		勝山中	2	白口海
		落合中	1	庄司奈央
		落合中	2	道下温斗
		湯原中	2	古林真穂
		湯原中	3	藤原世莉奈
		勝山中	2	岡田花音
		勝山中	2	榎本洸太郎
高校・一般の部	最優秀賞			落合晶和
	優秀賞			柴田誠
				森下太郎
				髙野清之
	奨励賞			兼田明三
				藤木賀巳子
				片山喜美子
				藤木信宏
				山本恵子
				稲岡智恵美

真庭市教育委員会　生涯学習課

発行日　令和4年3月
〒719－3292　岡山県真庭市久世2927－2
TEL 0867-42-1094　　FAX 0867-42-1416